

# 高齢HIV感染者におけるARTの有効性、 忍容性を調べた臨床試験

- **ECHO試験、THRIVE試験**：（RPV vs EFV）<sup>1</sup>
- RPV投与を受けた高齢（50歳以上）および若年のHIV感染者のウイルス学的著効率は類似しており、EFV投与を受けた高齢者の方が若年者よりも数値的に高かった。
- **GEPO試験**<sup>2</sup>：65歳超のHIV感染者において、INSTIを服用している患者の割合は2015～2017年の間に21%から48%に増加した。
- **ATLAS試験およびFLARE試験**：（長時間作用型 [LA] CAB+RPV）<sup>3</sup>
- 50歳以上および50歳未満の患者における有効性、安全性および忍容性は同等であった。LA CAB+RPV群の治療満足度はベースラインよりも改善し、年齢別でも同程度であった。
- **COHERE試験**<sup>4</sup>：50～54歳、55～59歳、60歳以上の患者ではウイルス学的反応がみられる確率はより高かったが、60歳以上の患者では免疫反応がみられる確率はより低かった。
- **Kaiser Permanente** 社の医療プランの会員を対象とした研究<sup>5</sup>：50歳超のHIV感染者は、若年者と比較してウイルス量が検出限界値未満に達する確率がより高かった。若年者は、CD4+細胞数がより大幅に増加する確率が高かった。